

岡山県立倉敷まきび支援学校 第3回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和7年2月25日(火)

会場：大会議室

開会あいさつ（金島校長）

12月と1月に行われた2回の入学者選抜が無事終わり、来年度の児童生徒数は今年度より増える見込みとなった。昨今は本校に限らず、特別支援教育を必要とする児童生徒は増加傾向にある。特別支援教育の在り方や求められるものを一緒に考えていただけたらと思っている。

被災やコロナ禍で活動が制限されてきたが、この一年間は制限なく教育活動が行うことができた。大変うれしく思う。

本校生徒による接遇・質疑応答

高等部職業コースの生徒による接遇が行われた。委員からは、「将来の夢」「学校で楽しいと感じること」「現場実習に関すること」などの質問が出て、それに対して生徒は自分なりの答えを考えながら答えた。委員からは、生徒と直接交流できたことで理解が深まったとの声をいただいた。

学校評価について

保護者からは概ね高い評価であったことを報告した。教職員との比較や自由記述などから見えてきた課題については、改善策を提案したり、ご意見をいただいたりした。

学校生活アンケートについて（岸本教頭）

今年度、認知されたいじめ件数が12件となった。そのうち9件は解消されている。SNS上のトラブルもあったが、日々の指導や外部講師による情報モラルについての講演などでトラブル防止に努めている。

月1回の困ったことアンケート（対象：A中、A高）、学期に1回の学校生活アンケート（対象：A小、B部門）はいじめの早期発見、早期解決、抑止を目的としている。困ったことアンケートに取り組み始めて2年になるが、以前に比べるといじめが認知されやすくなったと感じる。今後も児童生徒の状況の把握に努め、いじめの防止や早期発見につなげたい。

〈委員より〉サポートセンターなど、外部にも協力を依頼して指導を行ってはどうか。ケースによっては、少人数での指導の方が効果がありそう。

本年度の卒業生の進路について（岸本教頭）

一般就労、A型就労は昨年度に比べて内定数が増加している。また、職業コース、生活コースの生徒のどちらも一般就労、A型就労から内定をいただいた。専門教科、作業学習で体力、集中力など働く力を培っている成果と考えている。

〈委員より〉障害者雇用枠の改定もあり、企業側の意識も変化してきている。ハローワークも学校、企業と連携を取りながら就労につながるよう支援していきたい。

令和7年度学校経営計画について（金島校長）

行事だけでなく学びをつなげていくという視点でも全校で取り組み、学部間の連携強化につなげる、防災教育を地域とともに推進していく等、来年度の方向性を報告した。

グループ協議

就労班

事業所参観日は、昨年度の反省を踏まえてグループの数を増やしたり、見学箇所を限定したりした。そのことで、ゆとりのある見学になり、本校について理解をより深めていただくことにつながった。参加者からも好評をいただいた。

環境・安全班

活動を精選したことから、無理なく計画された活動を行うことができた。また、昨年度実施できなかった避難所体験では地域の方のお力添えで実のある活動を行うことができた。生徒指導の案件でも地域の方に情報提供をしていただき、即時対応することができたケースもあった。今後も児童生徒の育ちを助けるという視点で地域の方にも協力していただけたらと思う。

福祉班

3回目のまきびカフェは過去最多の参加人数であった。外部からの参加や父親の参加もあった。お金のことがテーマであったが関心の高さが伺えた。毎回終了後にも話が尽きない様子が見られ、保護者のよい交流の場になっている。ホッと相談会（出張相談会）では、福祉機関に確実につながったケースや、相談支援員の活用が再開したケースなどがあり、実のあるものになった。

教育班

直接的な交流は引き続き行っていくが、小中学校が行っていることを一緒にしていくといったつながりも考えたい。例えば、まび未来プロジェクトにあるICT活用は本校でも一緒に取り組めると考えている。

次年度の委員について（中園副校長）

真備商工会議所から会長様、副会長様、青年部長様の3名にお忙しい中ご協力いただいていた。次年度は会長様、青年部長様にお越しいただくことにする。

閉会あいさつ（瀬本副会長）

現在、人材確保に苦慮している企業がたくさんある。企業側が求める人材を把握することも就労につながると考えている。来年度もご協力をお願いしたい。